

市民福祉委員会会議録

1. 開催年月日

令和4年3月24日 開会 10時27分 閉会 10時41分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

多賀信祥 上野安是 原田敬久 荒木謙二
三宅文雄 佐藤 豊

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 大滝文則

(2) 説明員

副市長 猪原慎太郎 病院事務部長 一安直人
病院医事課長 吉田真介

(3) 事務局職員

事務局長 和田広志 主 幹 藤井隆史
主 任 多賀大祐

6. 傍聴者

(1) 議員 沖久教人、三宅孝之、柳原英子、山下憲雄、坊野公治、宮地俊則

(2) 一般 0名

(3) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（多賀信祥君） それでは、ただいまから市民福祉委員会を開会いたします。

初めに、副市長のご挨拶をお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 改めまして、皆さんおはようございます。

本会議に続きまして、市民福祉委員会のほう、引き続きお疲れさまでございます。

この委員会に付託されております案件は、条例案件の1件でございます。皆様方におかれましては、慎重にご審議をいただきますようよろしくお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

〈議長挨拶〉

〈議案第29号 井原市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について〉

委員（原田敬久君） 先ほど緊急な手術は想定していないとの答弁があったのですが、その辺をもう少し詳しく教えてください。

病院事務部長（一安直人君） 先ほどの答弁は訂正させていただければと思うんですけども、また本会議場で説明はさせていただきますが、麻酔につきましては他の医師でもすることができまして、事前の説明でありますとか事後の管理でありますとかは、他の医師でも可能であるということでございます。

委員（佐藤 豊君） 繰り返して申し訳ないんですけども、麻酔科がなくなるという流れや背景をもう一度教えていただきたいと思うんですが。

病院事務部長（一安直人君） このたびの麻酔科の退職につきましては、定年退職でございます。当然標榜が継続できますように最後まで麻酔科医を探しておりましたが、結果として採用に至らず、今回ぎりぎりでの議案提出となった次第でございます。

委員（佐藤 豊君） 市民病院ということで、市民の皆さんにはある意味での安心のとりで、万が一のけがなどで手術をしなければならないような緊急な事態が起きた場合には、麻酔科という科があって、麻酔をしてもらって手術をするというような、市民感覚でもう皆さんそう思われていると思います。その中で、麻酔科がなくなるということは、かなり市民の不安をおおる要素だというふうに私は思うんです。だから、そういった意味で、補充するといった先生に来てもらうような取り組みをされたということなんですけど、定年ということは前々からある程度分かっていたと思うんですけど、いつ頃から、後任の麻酔科の先生を探されていたのでしょうか。

病院事務部長（一安直人君） はっきりとした探す開始の時期は分かりませんが、医院長がもう麻酔科医が退職となるということで、後任を採用するという意思是表明しておりました。

委員（佐藤 豊君） 市民病院はそれでも1人の医師を確保することで長年苦勞された歴史があると、僕らも議員になってからずっと聞いていたんです。その中で、1人の医師を確保することでも大変ということですから、長期の計画を立てた補充を見越した取り組みというものがあってもよかったんじゃないかと思うんですけど、その点は市民病院はどのようなスタンスで医師確保ということに取り組みおられるんでしょうか。

病院事務部長（一安直人君） 基本的には、内科医師それから外科医師が不在となることは避けたいというふうには考えておまして、今回の麻酔科の標榜ですけれども、麻酔科の標榜のためには、経験年数2年以上であるとか気管挿管の麻酔手術が200件以上といったハードルがあって麻酔科の標榜医が標榜することができる、例えばほかの医師でも麻酔をすることができるので、麻酔科の標榜を外したからといって麻酔がすぐにできなくなるということではないということへの安心感があったのかかもしれませんが、結果として麻酔科医を継続して雇用することはできなかったということでございます。

委員（佐藤 豊君） 麻酔科がなくてもほかの先生が麻酔を打って手術ができると我々は分かるんです。それでも、一般市民の皆さんは麻酔科の先生がいないと手術ができないんじゃないか、という認識を持たれるんじゃないかということを非常に心配するわけです。こういった状況になってしまったら、それはしょうがないことなのかもしれませんが、安心して下さいというような市民に対する周知とか、取り組みというものは何らか考えておられるんでしょうか。

病院事務部長（一安直人君） 診療に影響がないということは、丁寧に説明をしてみたいというふうには考えています。

委員（三宅文雄君） 先ほど本会議で今後に影響はないというふうなことを言われたと思うんですけども、現状はどういった状態になっているのか教えていただけますか。

病院事務部長（一安直人君） 手術件数としましては年間で、300から400件の手術をしております。その全てを今の麻酔科医が担当しているのではなく、手術件数のうち約6割が眼科の手術でございます。今でも眼科専門の麻酔科医に依頼をしている状況でございます。現在おります麻酔科医につきましては、主に整形外科の麻酔を担当しております、その件数が全体の2割程度でございます。あとの残りの2割につきましては、現在でも岡山大学のほうから応援を頼んで実施している状況でございます。

委員（三宅文雄君） ということは、麻酔科医がいなくなれるということによって、そのカバーは岡山大学でやっていただけるという理解でよろしいでしょうか。

病院事務部長（一安直人君） 件数は増えると思いますが、岡山大学に依頼してみたいというふうには考えております。

副委員長（上野安是君） その結果、収益に多少の影響があるという説明を受けましたが、この多少を教えてください。

病院事務部長（一安直人君） 本会議で説明しました麻酔管理料でございますが、先ほどもありましたように、手術件数のうち2割でございます。そのうち、令和2年度では8件で7万6,000円、それから令和元年度では6件で6万3,000円が麻酔管理料として報酬が入っているような状況でございます。

副委員長（上野安是君）

岡山大学から、応援に来ていただくということで、その辺はスムーズにいけるようなお話は岡山大学とはされていると理解してよろしいですか。

病院事務部長（一安直人君） 応援に来ていただけるということになっております。

副委員長（上野安是君）

今まで2割を岡山大学のほうから来ていただいているという現状で、何か問題点があったということはありませんか。

病院事務部長（一安直人君） 特には聞いておりません。

議長（大滝文則君） すみません。これは副市長のほうかと思うんですけども、医業連携協定等々で、1億円を超える岡山大学との協定を結んで、いろんな協力関係をつくっていくということで、このたびの予算が計上されたんですけども、協定の効果がこういった事態のときには一切起きないというようなことでは、市として大きな予算を投じることをする、整合性がないといいたいまいしょうか、少し不安だなという気もするんですけども、そのあたりはどういうふうに執行部とすれば見ておられますか。そのあたりの考え方についてお知らせ願いたいと思います。

副市長（猪原慎太郎君） 寄附講座のことでございますけれども、岡山大学の医局とのつながりを強化することで、スムーズな医師確保につなげていきたいということでございます。そういった中で、成果が出ていないのではないかとご指摘であろうと思っておりますけれども、今回最後の最後まで常勤の麻酔科の医師の確保に努めていたところでございますけれども、このたびなかなか条件的にクリアできる方を見つけることができなかったということでございますが、事業管理者であります合地医院長からは引き続き常勤医師の確保に努めていきたいということを聞いておりますので、早期に医師の確保をしていただけるものと思っております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長（多賀信祥君） 以上で議案の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

〈なし〉

委員長（多賀信祥君） 閉会に当たり、執行部より何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 委員の皆様方におかれましては、慎重にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

市民病院の麻酔科の廃止ということで、皆さんには大変ご心配をおかけしたと思っております。先ほども申しましたが、合地医院長のほうから引き続き医師確保に努めるとのことです。市民に信頼される中核的な病院を目指して、今後とも頑張っていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

〈議長挨拶〉

委員長（多賀信祥君） 以上で市民福祉委員会を閉会いたします。